

市内高校生の状況

高校生の進路状況はどのような傾向にあるのでしょうか。進学希望が多い田辺高校と就職希望が多い田辺工業高校の進路指導室の先生に、生徒の動向や高校での取組について伺いました。

社会経験を十分に積めていない

進路に対する生徒の悩みの多くは、「将来についてのイメージができない」「どの大学を選べばいいのかわからない」といったことですが、その原因は、社会経験の不足や、進路の情報を詳しく知らないことにあるからだと考えます。

そして、社会経験を積めない要因としては、ほとんどの学生が生活サイクルが「家・学校・習い事」の繰り返しとなっており、このサイクルの外にある他の大人と関わる機会が少ないからだと考えています。

そこで、生徒が、学校や保護者以外の方との会話や相談ができる機会を作ったり、生徒の人生観や職業観を養うことを目的に、本校の卒業生による「社会人講話」を開催したりしています。



田辺高校
ふきいし ひろやす
葺石 浩恭先生



田辺工業高校
のぶひろ
三栖 伸洋先生

進路選択に悩む生徒が多い

本校は、毎年 1,000 件を超える求人をいただいておりますが、膨大な情報量の中、希望の就職先を選択する際、生徒の多くが、会社の業務や仕事内容ではなく、給与など待遇面にとらわれてしまう傾向にあります。

また、「進路は、生徒本人が自分で選択する」ということを念頭に進路指導しており、生徒が保護者の方と相談しながら進路を検討できるよう、企業の求人情報等を学校のホームページに掲載し、家庭においても情報を入手できるようにしています。

近年の就職状況を見ても、コロナの影響から、県内就職の割合が高くなっている傾向にありますが、生徒の希望が叶えられるよう、ひとり一人に寄り添った進路指導を心掛けたいと思っています。

進学の割合が高いですが、田辺市には大学がないため、多くの生徒が一度は外に出ていきます。

市内の高校5校の進路状況（令和4年度卒業生）

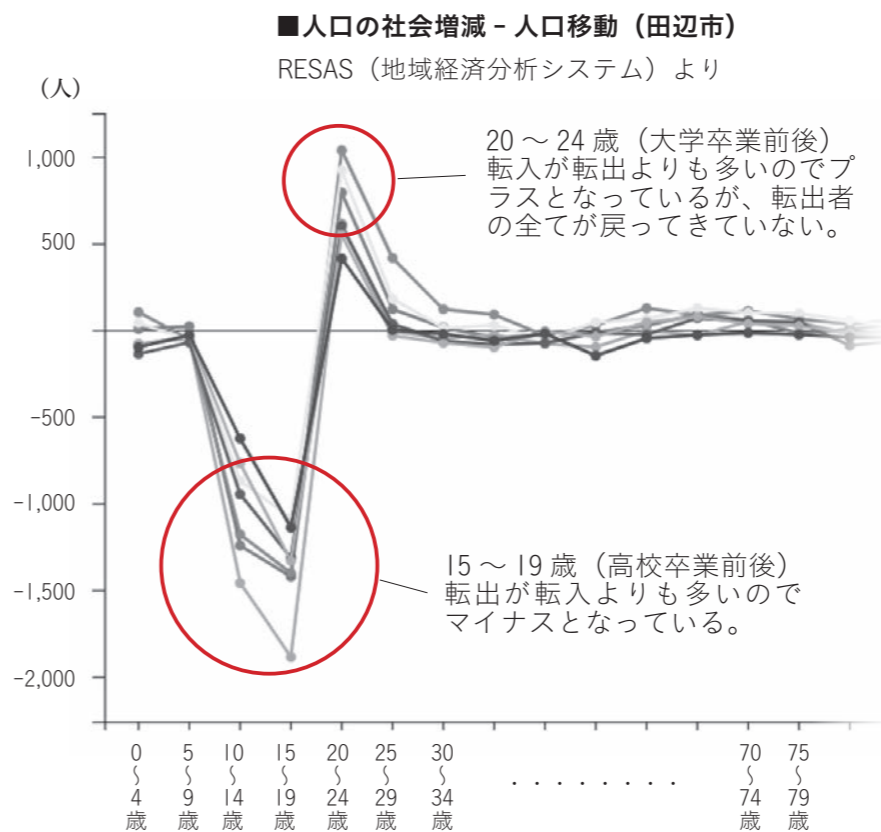
単位：人

	卒業生	進学		就職		その他
		4年制大学・短大・専門学校等	県内	県外		
田辺高校	270	237	10	2	21	
神島学校	234	191	28	9	6	
田辺工業学校	133	41	50	28	14	
南紀高校	23	9	6	1	7	
南部高校龍神分校	13	10	—	3	—	
計	673	488	94	43	48	



特集 「田辺で働く」という選択肢

若者にとって、働くということに対して、どのようなイメージがあるのでしょうか。今月の特集では、「働く」をテーマに、高校の先生、市内で働く大人、そして、地域の人や魅力を知るために取り組む方々を紹介します。進学や就職を機に、田辺市を離れる高校生が、様々な角度から田辺市で働く魅力に触れることで、地元で活躍するという選択肢が増えるかもしれません。



田辺市を離れる若者
人口減少は、大きく2種類の原因によって引き起こされます。死亡数が出生者数を上回っている「自然減」と転入よりも転出する人口が多い「社会減」です。
田辺市の場合、特に社会減が顕著です。高校卒業後、進学や就職で田辺市を離れることが多く、社会減の大きな要因となっています。

※グラフは、1980年～2015年までを5年ごとに集計したデータです。どの年代も同じような傾向にあります。

わたしは田辺で働くことを選びました

様々なきっかけや思いが仕事選びの第1歩となり、実際に働くことでやりがいへとつながります。ここでは田辺で働くことを選択した4名を紹介します。

得意なことを仕事に

小さい頃から絵を描くことが好きでしたが、進学を親に反対され一度地元で就職しました。絵を描くことは続けていたので、フリーマーケットで絵の販売に挑戦したところ、**買ってくれたお客様の笑顔に背中を押され**、大阪の専門学校へ行くことを決めました。卒業後は田辺でデザイン事務所に就職し、出産を機にフリーランスになりました。

現在は、**地域の困りごとと自分にできることを**考えながら仕事をしています。お絵描きワークショップを通して、子どもたちには自由に描くことの楽しさを教え、一緒に来た親御さんは子育ての悩みを話せる交流の場となるよう活動しています。

私は自分の得意なことを生かして、子育て支援につながればという思いで仕事をしています。田辺には、**子育てをしながらハンドメイド販売や雑貨屋経営など、魅力的な活躍をする方が多い**です。



和田 ともこさん
(イラストレーター)

離れて分かった田辺の魅力

私が中学生の時、授業や部活、休み時間などいつでも自分たちと笑って過ごしてくれた先生がいました。**こんな人になりたい!**と思い教師になることを決めました。大学卒業後、大学のあった京都で教鞭をとることになりましたが、知人が多く、住み慣れた田辺で働きたいと思っていたので、昨年帰郷し、地元で教師を続けています。

学校は社会に出る前の準備をするところです。成功や失敗を経験する中で、一人一人の個性の大切さや、みんなで力を合わせる素晴らしさを教えてあげたいです。かつていつでも一緒に過ごしてくれた先生のように、私も**生徒の成長をそばで見守りながら、生徒が自分で選んだ道を歩めるようサポート**をしていきたいです。

田辺は人や地域との距離感が近くて安心でき、より大切なところだと再確認できました。田辺から離れたとしても色んなものを見て、知って、是非田辺に戻ってきてほしいです。



早稲田 まことさん
(教師)



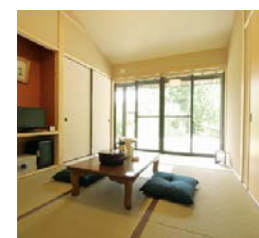
わたしの
たなべ
推し!

わたしの
たなべ
推し!

自分らしく生きる場所

私は和歌山市出身です。旅好きなこともあり、もともと神戸の旅行会社で働いていました。しかし、都会のリズムが合わずに自分を見失いそうになり、癒やしを求めて無計画な旅に出ました。たどり着いたのが本宮の川湯温泉です。ペンションのオーナーに田舎で旅人をもてなす仕事がしたいと話すと、「本宮で働かんか」と声を掛けていただきました。これをきっかけに紹介していただいた旅館で働くことができ、今では民宿を運営しています。縁もゆかりもない私を受け入れてくれた本宮で、もう20年以上もこの仕事を続けることができている。

民宿の仕事をしていると、「こんなにぐっすり眠れたのは初めて」など**お客様に掛けていただいた言葉がやりがいにつながります**。ここを選んで良かったと思えるようにおもてなしをしていきたいです。



わたしの
たなべ
推し!

都会は何でもそろっていて便利ですが、リズムが自分に合いませんでした。田辺では**ゆったり自分らしい働き方ができています**。



山本 なおやさん
(民宿経営)

何事も経験しないと分からない

私の実家は農家で、高校生の時に初めて梅やみかんの収穫の手伝いをして、「**なんか楽しい**」と感じました。その思いが農家を継ぎたいという気持ちにつながり、農業の専門学校へ進学することを決めました。そういう意味では、**何事もしてみないと分からないな**と感じています。

専門学校を卒業してすぐには、家族と一緒に農業をしていくことは難しいと思い、地元のJA（農業協同組合）に就職しました。6年間お世話になる中で、多くのことを学ばせていただき、現在の仕事に生かせることができます。

わたしの
たなべ
推し!

気候の良い田辺だからこそ、私は15種類ものみかんを育てることができています。**自分の作ったものを食べて喜んでくれる姿を見ると、とても力になります**。



中山 まさちかさん
(農家)

地域の人とつながり 田辺の魅力を知る



高校生や大学生向けの教育プログラムを提供する山田かな子さん。今年の1月〜2月にかけて、市の人材育成事業「たなべ未来創造塾」の修了生らと一緒に、紀南地域の高校生が地元の企



山田 かな子さん

まずは知ること

進学や就職で田辺市を離れた人が地元に戻ってこない。高校生が、地元の方と交流することで、地域の良さを知り、視野を広げてもらえれば、こうした課題が少しでも解決するのではないかと考え、このプログラムを企画しました。

どんな人が地域にいるのか、何を考えて仕事をしているのか。普段の生活ではつながることがなかった人との交流は、高校生にとって、きつと良い経験になります。また、参加企業にとっては、若い人がどんな考えを持っているのか、求めているものは何かを知る機会にもなります。

高校でも地域を考える取組が

地域課題の解決方法を考える講座「神島塾」(神島高校)が、昨年初めて開催されました。地域の方から、仕事のやりがいや課題についての講演を聞き、課題解決のために、高校生としてどのようなことができるのかを一緒に考えます。

校内で募集をかけ、1年生から3年生までの20名が参加。3か月間で全5回開催し、最終回は地域課題を解決するためのビジネスプランを発表しました。

特産品の梅の商品開発を行う「神島屋」のメンバーでもある小阪さんと岡崎さん。神島屋の活動でも、地域との関わりから様々なことを学んだが、社会人になる一歩手前で、さらに良い経験ができたと言います。

業と交流しながら、自分の将来について考えるプログラムを実施しました。高校生15人が参加し、地元企業5社と交流。大人の考え方や働き方、地域に対する思いなどを聞きました。

地元でずっといるのもいいなと思えた

高校卒業後、地元で就職しようと決心しました。「とりあえず進学」ではなく、就職してからでもできることはいっぱいあるし、まだまだ田辺のことを知りたいと思いました。社長さんや従業員の方のお話を聞けることがとにかく楽しかったです。地元に残る人が増えたらいいなと思います。



プログラムに参加した
宮崎 萌さん

田舎から何も知らない。この考えは間違ってたな！

地元「で」いいから

「地元が好きになった」と言っていた子がたくさんいます。みんな「田舎は何もない」みたいに思っていたけど、魅力がいっぱいだと感じました。何より人の魅力に気がきました。もっと多くの高校生がこのような経験ができればと思います。



神島塾に参加した小阪さんと岡崎さん。2人は4月から地元企業に就職しています。

地元「が」いいに

当たり前前に考えていたことも、少し角度を変えてみると、地域の魅力や課題があることに気がきました。地域を見る目が変わったような気がします。「おもしろい大人がいっぱいいるなあ」と思えた神島塾でした。

田辺ってこんなに
おもしろい大人がいっぱい
いるんや！

田辺で働く魅力



たなべ 営業室
鍋屋 安則

田辺を知ろう

田辺市には大学がないため、進学で出てしまうのは仕方がないこと。大事なものは外に出て学んだ人が、どれだけ多く戻って来れるかです。

山田さんや神島塾が取り組んでいるように、地域と人がつながることで、田辺市にいてもいろいろな働き方ができることを知ってもらうことが重要です。

新しい視点

市では、人材育成事業「たなべ未来創造塾」を創設しました。それは、業種が違う立場の人たちが集まり、それぞれが抱える課題を解決するために話し合い、価値を生み出していくというものです。

例えば、商品にならない虫食いの課題解決。デザインナーの提案で虫食い部分に蛍光塗料を流し込んでみると面白い模様が浮かび上がり、二つとないものが出来上がりました。それを家具屋さんが家具にしていくことによって、様々な業種の人たちのアイデアが詰まった新たな商品が生まれました。

カッコいい働き方

このように地域の課題とさされてきたことを人々の力でプラスに変えていく。そんな取組をするカッコいい大人が田辺には大勢います。

進路について考えていく皆さんにも、多様な視点を持ち、将来の選択について考えてみてはどうでしょうか。

